

第12回 発電用設備規格委員会 材料専門委員会 議事録

1. 日 時: 2011 年 7 月 7 日(木) 13 時 30 分～17 時 00 分
2. 場 所: 日本機械学会 第1会議室
3. 出席者: 委員総数 23 名中、出席者19 名(代理4名)、欠席者4名
増山(九工大)、高橋(電中研)、木村(NIMS)、浅山(JAEA)、伊勢田(住金)、尾崎(東電)、木原(ベストマテリア)、榎木(住金テクノロジー)、田村(パブ日立)、中城(東芝)、藤森(日立 GE)、船田(JNES)、南(NKK シームレス鋼管)、朝田(三菱重工)、齋藤(三菱重工)
代理人:伊藤[石毛(IHI)]、戸田[澤田(NIMS)]、今野[吉田(発電技検)]、松浦[山田(中電)]
欠席者:安藤(横浜国大)、三枝(電中研)、田中(日本製鋼所)、玉置(NISA)、
オブザーバー:鬼澤(JAEA)
事務局:高柳、海野、薄井

4. 配布資料

- 資料材 12-1-1 第 10 回材料専門委員会議事録(案)
- 資料材 12-1-2 第 11 回材料専門委員会議事録(案)
- 資料材 12-2 材料専門委員会委員名簿
- 資料材 12-3 第 57 回発電用設備規格委員会議事録(案)
- 資料材 12-4 材料専門委員会課題対応一覧(Tracking List)
- 資料材 12-7 高速炉規格における新規材料の規格化に関するレビュー結果回答案
- 資料材 12-8 規格委員会および専門委員会の運営規約の改訂提案について
- 資料材 12-9 材料専門委員会への検討依頼事項
(資料材 12-5～6は欠番)

5. 議事内容

(1)開会

委員総数 23 名中、出席 19 名(代理出席 4 名を含む)、欠席 4 名であった。出席者は委員総数の 2/3(16名)以上の 19 名であり、本委員会は成立することを確認し、増山委員長が委員会開催を宣言した。

出席者の自己紹介を行った。

前回の第 11 回委員会では出席者数が決議に必要な委員総数の 2/3 に満たないことから、承認項目は今回(第 12 回)に繰り越すこととした。また、今後予定されている運営規約の改訂案では、委員会の成立にも委員総数の 2/3 以上の出席が必要となる内容が盛り込まれていることを鑑み、今後は欠席者の都合も確認して開催日を設定するとともに、事前の出欠確認を確実にすることとし、次回開催に際しては材料専門委員長が出欠確認をすることとした。事務局からの連絡は従来通りとする。

(2)議事次第確認

議事次第案の確認を行い、審議事項(2)材料事象の解説は削除し、資料材 12-5 が欠番にな

ることを説明し承認された。

(3) 議事録(案)の確認 【材 12-1-1、12-1-2】

前回、前々回の議事録(案)の確認を行い意見等は無く、議事録案は承認された。

(4) 委員会委嘱関係 【材 12-2】

委員の退任、新任、再任は無いことが報告された。

(5) 規格委員会報告 【材 12-3】

第57回発電用設備規格委員会議事録(案)の材料専門委員会関連部分が報告された。

6. 審議事項

(1) 材料専門委員会課題対応一覧(Tracking List) 【材 12-4】

木村幹事より、材料専門委員会課題対応一覧(Tracking List)について説明があった。

RQ09-C2-001: 今後、必要に応じて見直すとともに、利用可能な状態で維持することを確認した

RQ09-C2-002: 審議経緯を確認し、以下の審議項目(2)で審議を行った

RQ09-C2-003: 担当者及び進め方が不明確であるため、増山委員長が進め方を検討し、次回の材料専門委員会で審議することとした。なお、以下の意見交換があった

- ・P 番号は、JIS B8285「圧力容器の溶接施工方法の確認試験」あるいは JIS B8265「圧力容器の構造—一般事項」と整合させてはどうか
- ・Gr.91 の P 番号を確認する必要があるのではないか
- ・火力規格への ASME 材の取り入れに際して、検討すべき項目を確認する必要があるのではないか

RQ10-C2-001: デジタルデータを利用する具体的事例に合わせて対応することを確認した

RQ09-C3-001: 溶接継手検討タスクの活動結果を総括し、火力規格への反映状況を確認した結果、溶接継手検討タスクの廃止が提案された。審議の後、挙手による決議を行った結果、賛成18、反対0、保留0、(木原委員途中退席により、決議参加委員は18名)で書面投票の開始が可決された。木村幹事が書面投票書類を作成し、事務局へ送付することとした

RQ09-C3-002: ASME Sec. I, PG-20 は 2010 年版で規格化されたので、ボイラ関連メーカ委員である、田村委員、石毛委員、齋藤委員が検討を行い、次回の材料専門委員会にて審議することとした

RQ10-C3-001: 審議経緯を確認し、以下の審議項目(5)で審議を行った。

RQ11-C3-001: 審議経緯を確認し、以下の審議項目(3)で審議を行った。

(2) 材料事象の解説

前回の材料専門委員会開催後に実施した各委員による担当部分の確認状況を総括し、A800 までの項目のレビューは完了したことを確認した。ボイラ関連事項である A900 項目の方針、位置付け、内容等を確認し、次回専門委員会でレビュー結果を審議することとした。

(3) 高速炉規格における新規材料の規格化に関するレビュー結果への回答【材 12-7】

浅山委員よりレビュー結果回答案が説明され、以下の項目に関して意見交換を行った。

- ・時間係数 α を適用した理由
- ・新材料に対して P 番号や外圧チャートをどのようにして決定するか
- ・新規材料及び相当材の定義, 材料の呼称をどうするか
- ・溶接性確認データの提出の必要性

追加のコメントは 7 月 22 日までに木村幹事に提出し、浅山委員に伝えることとした。

材料専門委員会でのレビュー結果を踏まえて、原子力専門委員会での規格策定作業を進め、次回以降の材料専門委員会では、追加コメントへの回答や規格策定作業の進捗状況を報告することを確認した。

(4) 専門委員会規約改訂について【材 12-8】

木村幹事より専門委員会の運営規約改訂案が説明された。規格委員会と専門委員会の運営規約改訂案の比較と併せて、変更箇所等の説明があり、規約改訂内容に関する審議を行った。審議の後、書面投票の開始に関する決議を挙手により行った。

結果: 賛成18名、反対0名、保留0名(木原委員途中退席により、決議参加委員は18名)にて、書面投票の実施が可決された。

(5) その他

- ・材料専門委員会への検討依頼事項【材 12-9】

朝田委員と高橋副委員長より、原子力専門委員会材料分科会から依頼された検討事項である「高温での Su 値の求め方」に関する説明があり、ASME規格の内容等について議論を行った。増山委員長が調査結果を取りまとめ、次回の材料専門委員会に報告することとした。

- ・原子力専門委員会の体制見直し検討への対応

高橋副委員長より、発電用設備規格委員会幹事会において、原子力専門委員会の体制見直しが検討されていることが報告された。JSME 発電用設備規格全体における材料規格や材料専門委員会のあり方を検討する必要性が議論された。木村幹事が検討のための資料を作成し、次回の材料専門委員会で審議することとした。

7. 次回開催予定

日 時: 2011 年 11 月 15 日(火) あるいは 18 日(金) 13:30~17:00 (予定)

場 所: 日本機械学会第 1 会議室

出席委員の全員について、開催候補日の 2 日はいずれも都合が良いことを確認した。

欠席委員及び代理出席した委員の都合を木村幹事が確認し、開催日を決定することとした。

以 上